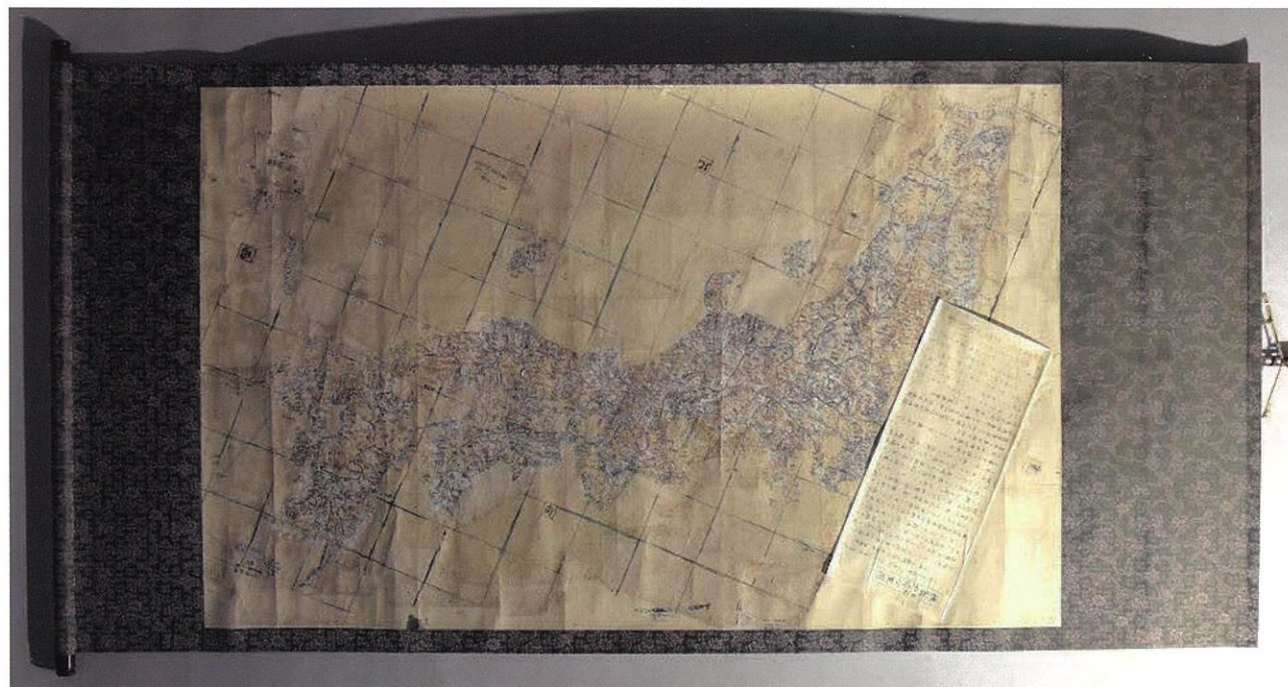




●改製日本分里図（保存修理済）

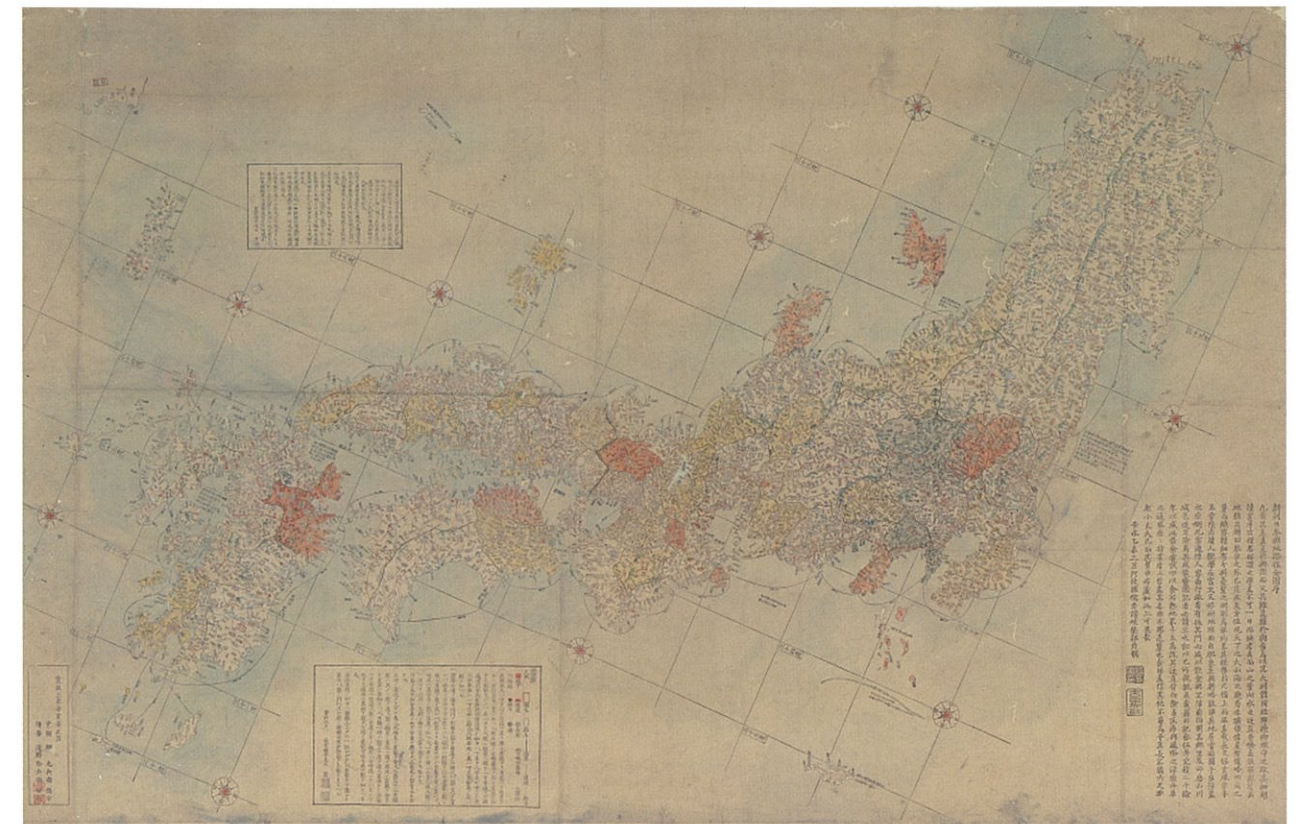
改正日本輿地路程全図(通称:赤水図)の原図とされる資料で、赤水52歳の明和五(1768)年に自筆の日本図。横線に緯度が記入されており、胡粉(ごふん)という白色顔料や貼紙による修正痕が多数みられます。



●保存修理前の改製日本分里図（保存修理前）

経年に伴う汚れの付着・皺の発生・糊の剥がれ等が生じていました。また、本州右側(太平洋部分)に書付が貼付されていました。

汚損等については、適切な材料を用いて修理が施され、書付については別置保存としました。なお、本資料は、赤水が日本図を作るにあたり膨大な考証を重ねた資料であり、修理や制作過程の記録に2カ年を要しました。

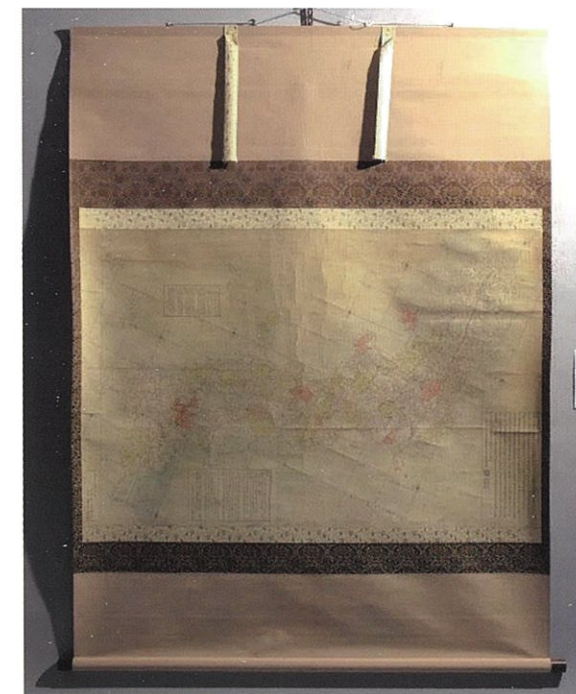


●改製日本輿地路程図 第二版

(上:保存修理済、左:保存修理前)

赤水図と呼ばれている路程図の第二版。初版との大きな違いは、海路や郡名の記入等、情報量に飛躍的な増加がみられることが挙げられます。赤水図は、初版(安永版)と二版(寛政版)を併せて15回以上の改訂を繰り返しており、路程図の正確性を追求した赤水の努力を感じることができます。この資料は、赤水の子孫宅に保存されていた資料で、重要文化財に指定された唯一の赤水図です。

保存修理前の資料は、皺の発生・汚れや虫損箇所が散見されており、今回これらの箇所へ必要な処置を行いました。また、本紙への負担を減らすため、軸を太くする等、修理後の資料の取扱いについても改善を図っています。



本修理事業は、文化庁の文化財補助金、公益財団法人住友財団の助成を受け実施しています。また、令和3年度はクラウドファンディング型ふるさと納税を募集し、多くの皆様からご支援をいただきました。